

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		環境保全・社会開発・経済開発の同時達成をめざした理念研究 ～インド・先住民族の村落における灌漑およびダム開発の現地調査から～			
研究テーマ (欧文) AZ		Theoretical Research for the Harmonization of Environmental Protection and Socio-Economic Development			
研究氏 代 表 名 者	カタカナ CC	姓)プテンカラム	名)ジョン・ジョセフ	研究期間 B	2006 ~ 2007 年
	漢字 CB			報告年度 YR	2008年
	ローマ字 CZ	Puthenkalam	John Joseph	研究機関名	上智大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		上智大学大学院・地球環境学研究科・教授			
概要 EA (600字～800字程度にまとめてください。)					
<p>本研究は、インドの農村部における大規模および及び小規模開発の事例を現地調査によって対比的に捉え、社会的弱者の立場に立って、社会・経済開発と環境保全の対立関係から同時達成の関係へと転換をうながし、社会の持続可能性を高めうる理念を提示することを目的とした。</p> <p>現地調査では、大規模開発ケースとして、インド開発の典型である巨大ダム開発（ナルマダ・ダム）、小規模開発ケースとしてイリゲーション開発を採用した。調査分析の枠組みとしては、経済学における量的な尺度と、社会学における質的な成長の視点を学際的に活用することを試みた。それにより、社会の底辺に位置する人々の貧困状態の質的な把握と、意識面をクローズアップさせることに留意した。</p> <p>文献研究及び現地調査から明確になったことは、絶対的貧困のスパイラルにある人々にとって、いかなる場合においても、まず、生存の安全保障の要件の一つである Basic Human Needs の確保が最優先課題だということである。貧困層の中でも先住民族というさらに脆弱な人々、常に飢餓と人間的貧困に直面する人々には、環境保全に取り組もうとする意識の喚起や、まして来の持続可能性を展望する余裕はない。</p> <p>そしてまた、Basic Human Needs のための経済開発を優先することは、必ずしも環境に対立するとは限らないことを見出すことができた。現地の人々が最も求めている「水」と「電気」を開発の柱にすることで、農地に突りを、すなわち「経済的価値」をもたらすことができる。それにより農民は土地を捨てることなく地元に根差し、本来有していたはずの自然との共存の知恵を回復しながら、農地の「緑」を維持することができるようになる。そして、この段階において、農民たちの原始的な環境保全の「意識」や「知恵」を「一般化された知識」へと転換することが求められる。</p> <p>「水」と「電気」によって、農地に「緑」という「環境的価値」と、「食糧」という「経済的価値」を同時に生み出していくことで、農地の持続可能性を創出し、人々の「環境の意識」の喚起と「知恵を知識へ」と一般化していくこと、これがインドの貧しい農村地域における環境保全・社会開発・経済開発の同時達成への道筋であると考えられる。</p>					
キーワード FA	環境と開発	持続可能な開発	貧困削減	環境保全意識	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	国家の経済開発のための「自然的資源」をもとめて：インドの事例から（In Search of Natural-Environmental Resources for National Economic Development: Case Study of							
	著者名 <sup>GA</sup>	ジ ョンヅ ヨセフ テンカラム	雑誌名 <sup>GC</sup>	上智地球環境学紀要					
	ページ <sup>GF</sup>	79~91	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	0	8	巻号 <sup>GD</sup>	3
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	「環境保全と経済開発の同時達成のための理念」 Evolution of a New Theoretical Approach for the Harmonious Integration of Environmental Protection and Economic							
	著者名 <sup>GA</sup>	ジ ョンヅ ヨセフ テンカラム	雑誌名 <sup>GC</sup>	上智地球環境学紀要					
	ページ <sup>GF</sup>	~	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	0	8	巻号 <sup>GD</sup>	4(予定)
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	~	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	0	8	巻号 <sup>GD</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総 <sup>ヘ</sup> -ジ <sup>ヘ</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総 <sup>ヘ</sup> -ジ <sup>ヘ</sup>	

欧文概要 EZ

The purpose of this research is to propose a theoretical framework for the harmonization of environmental protection and socio-economic development. By a comparative investigation of development projects we try to understand the possibility of achieving social-economic development and environmental preservation. In this research we also consider the sustainability of society in general.

For a rural and agricultural country like India provision of water and electricity remains the core of development. Through our investigation we could clarify that the most important aspect is to insure the basic human needs for the poor in order to bring them out of the spiral of absolute poverty.

Our research proves that securing of water and electricity has an economic merit for the farmland as well as for the village people. Economic advantage can retain farmers in the village and farmers can recover wisdom to coexist with nature. In this process, a new awareness of knowledge is derived to shape anew consciousness with local wisdom. Economic merit of farmland means maintenance of green environment. Briefly, provision of water and electricity lead not only to economic development but also to environmental protection.

This is the new path of development model with an integration of environmental protection, social development, and economic development in the rural area in India. Our research leads to the fact that environmental protection lies in economic development.